
その顔のけいれん・痛み、喉の痛みは脳神経が原因かもしれません
—脳神経減圧術の適応と地域連携—

二村元、柏木秀基、井畑知大、藤川喜貴、福村匡夫、辻優一郎、
矢木亮吉、平松亮、亀田雅博、野々口直助、古瀬元雅、川端信司、
高見俊宏、鰐淵昌彦
(大阪医科薬科大学病院 脳神経外科・血管内治療科)

片側顔面痙攣、三叉神経痛、舌咽神経痛は、脳神経に対する血管圧迫によって生じる代表的な脳神経圧迫症候群であり、それぞれ眼科、耳鼻咽喉科、歯科・口腔外科、ペインクリニック、一般内科などを初診することが少なくない。症状が非特異的であることから、診断までに時間を要したり、不必要な投薬や処置が行われたりする症例も経験される。

これらの疾患に対して、まずは薬物療法やボツリヌス毒素療法が施行されることが多いと思われるが、唯一の根治的治療として脳神経減圧術（microvascular decompression: MVD）がある。当院では片側顔面痙攣、三叉神経痛、舌咽神経痛に対して積極的に外科治療を行っており、高い症状改善率を得ている。また、再手術例、椎骨動脈関与例、腫瘍合併例などの複雑症例に対する治療も多く経験している。

本発表では、各疾患の特徴的症狀、鑑別診断、紹介のタイミングについて概説するとともに、実際の手術動画を供覧し、当院における治療の実際および複雑症例への対応について報告する。また、本発表を通して地域医療機関との連携を強化し、適切な診断・治療介入につなげることを目的とする。